サルー
Salud!★19号
2015年6月15日

●キューバ友好円卓会議　通信
e-mail：cuba.entaku.0803@gmail.com
FAX　03－3415－9292　　http://cubaentaku.web.fc2.com/
〒157-0073　東京都世田谷区砧8-15-14-101

2015 キューバ友好フォーラム

ツアー報告会

岐路に立つ キューバ

雨になった2015年のメーデー（ハバナの革命広場／写真：安田 清）※２ページに報告

7月11日（土）
13:00～16:30

会場：**日本記者クラブ大会議室**　（TEL 03－3503－2721）
〒100-0011　東京都千代田区内幸町２－２－１　日本プレスセンタービル９階
最寄り駅は東京メトロ千代田線・日比谷線霞ヶ関駅、東京メトロ丸ノ内線霞ヶ関駅、
都営三田線内幸町駅、ＪＲ新橋駅日比谷口

キューバが変貌しつつあります。今年１月から米国との国交正常化交渉が始まったからです。もし、両国間で国交が回復すれば、1961年以来、実に54年ぶりのことになり、キューバの政治、経済、社会、文化に劇的な変化をもたらすでしょう。ラテンアメリカをはじめとする国際情勢にも大きな影響を及ぼすと予想されています。
そうしたキューバの現状を知ろうと、キューバ友好円卓会議は４月下旬から５月上旬にかけて「第３回キューバ・ツアー」（14人） を実施しました。ツアーのメンバーが、その目で見たキューバ最新の実像を映像と講演でお伝えします。どなたでも参加できますので、お友だちを誘ってご参加下さい。

プログラム

ツアーを記録したDVDの上映　制作　**杉本茂樹**　ツアー事務局長

★報告1　**転換期を迎えたキューバ** ～対米交渉と経済改革の行方～　**岩垂 弘** ツアー団長／ジャーナリスト

★報告2　**キューバの日傘、雨傘**　**井ノ上節子** ツアー参加者／元教員

★発言　**ツアー参加者**

参加費　1000円　（円卓会議会員500円／ツアー参加者無料）　※事前の申込みは必要ありません。

♪どなたでも参加できます♪　お友達を誘ってご参加ください★　お問い合わせはFAXかｅ-mailで下記へ。
キューバ友好円卓会議　　〒157-0073　東京都世田谷区砧8-15-14-101
FAX　03－3415－9292　　e-mail：cuba.entaku.0803@gmail.com

2015 年春キューバツアー

革命広場　雨と涙の 100 万人メーデー　★表紙写真参照

小蓬原千津留　（こふつはら ちづる／鹿児島県）

大河のような労働者の流れ

初めてのキューバ旅行も、中盤に差しかかり、５月１日、今日はメーデーへの参加です。日本でのメーデーを思い出しながら、先日見学したあの革命広場に、どうやったら 100 万人が集うことができるの？　と興味津々でした。

早朝４時半、まだ薄暗いうちにバスで出発。車窓からはたくさんのバスや車、歩道を行く人、みんな革命広場へ向かっています。

会場入り口で通行証を示した私たちは、椅子のある高い席へ案内されました。大型スクリーンや楽団、応援団が向こう正面に据えられ、会場を盛り上げています。隣席の言葉の通じない人々と、折鶴で交流しながら開会の７時を待ちました。

ラウル・カストロさん一行が、私たちの背後の一段高い席にやってきました。我が家のテレビで観た、オバマさんと握手したあのラウル議長です。開会のあいさつや演説が始まりましたが、日本語訳はないのでＢＧＭ感覚でスペイン語を楽しむしかありません。

それにしても、人でごった返すはずの広場は空きも多く、１万人しかいないんじゃないの、100 万人はどうしたの？と気がかりでした。

日本と同じで、集まりが悪いのかなと心配です。雨も降り出しました。傘の用意のない私は、万一に備えた黒い大きなゴミ袋を頭と両腕を通す穴をあけかぶりました（写真上）。帽子があるので万全です。ラウルさんは大丈夫かなと見上げると傘もささず、ぬれたまま平然としていました。

しばらくして、一段と歓声が大きくなったと思いきや、左遠方から大きな人の群れが会場へ流れてきました。幅 10 車線分もある広場の中央を、団結を記した横断幕を先頭に大河のごとく流れていくのです。

どこから来てどこへ流れて行くのか、１時間ぐらいは流れたように思います。高い席から眺めているのがもったいなくて、下まで降りて手を振り、目を合わせました。子どもから高齢者まで、仕事の制服を着た人、警官、看護師、着飾って踊りながら歩く人、楽器を奏でる人……プラカードには「メーデー万歳」「カストロ万歳」「ゲバラ万歳」と記され、色とりどりの旗に混ざって、さとうきびを掲げている人も多く、農業をしている人びとの参加に驚き、すべての労働者が祝っていることを実感しました。

手を振ると「へーイ、チャイナ？」「オー、ハポン！」と笑顔が返ってきます。世界 70 数か国からの参加があり、肌の色もさまざまです。日本人同士で色が白いとか黒いとか言い合って一喜一憂しているのがこっけいに思えてきます。白は白なりに、黒は黒なりにとてもきれいなのです。

インターナショナル♪ に送られて

働く者が幸せに暮らすキューバ、弱い者も明るく陽気に生きる国、医療も福祉も教育も、すべての人びとに無料で提供されるシステムを作り上げたカストロやゲバラの熱い思い、そして、その思いを革命から 50 年を経た今日まで継承し発展させているキューバ国民の賢明さに心を打たれました。

ひとりひとりを見つめながら涙があふれてきたけれど、雨が降っているのでごまかせます。このメーデーには雨が似合うと思いました。

いつまで続くの、この人波、と思う頃やっと終わり、雨もやみました。日本でこのようなメーデーが作れたら「集団的自衛権」や「憲法見直し」の言葉など聞かなくてすむでしょうと思いながら、またひとつ自分の心に新しい細胞が芽生えたような心地良さを覚えました。

「インターナショナル」の曲に送られて会場を後にしました。

2015 年春キューバツアー　４月 24 日ハバナのＩCAP（諸国民友好協会）本部にて

アリシア・コレデラＩCAP副総裁（アジア・中東担当）の話

私たちは革命に忠実にやっていく

まとめ　井ノ上節子（栃木県）

①2014 年は大きな成果をあげた

152 カ国で 2037 のキューバとの友好の行事がもたれた。国際ブリガーダは 18 回実施され、いずれも地方に行った。AMＩSTUR（旅行社）や、その他を通してキューバに来た人は１万人を超える。

2015 年 12 月 30 日はＩCAP55 周年記念の日。ＩCAPとしては年間を通してイベントを行っていく。様ざまな地域での友好行事を予定しており、ベトナムのハノイでは、９月８日～９日に第７回地域連帯会議が開かれる。この会議に、日本からも沢山参加していただきたい。

このケースはアジア地域の連帯会議だが、その他の地域での連帯会議も計画しており、ぜひ、いろんな友好団体の参加を得て、未来に向けての友好の形を探っていきたい。

②ＵＳＡから５人のうち２人が帰国していたが、昨年 12 月 17 日以降３人も戻った

５人は、平均して 16 年間米国の獄中にあった。彼らが祖国に戻るために連帯運動が継続して行われてきた。戻ったからと言って連帯の力が低くなることは無い。その力をさらに強い効果的なものにしていかねばならない。

日本では、５人解放百人委員会が大きな働きをしてくれた。弁護士たちも活動してくれた。５人の解放のために努力してくれたその力を、更なるキューバとの連帯のために振り向けていただきたい。

③経済封鎖反対を続ける

国交正常化交渉を始めるための両国首脳による電話会談、直接顔を会わせた首脳会談で、経済封鎖が話題となった。オバマ大統領が米議会にむけ封鎖柔軟化のための提案をする話はあるが、まだ何も進んでいない。このため私たちは経済封鎖反対を続ける。

④これからも世界の大義を維持していく

ベネズエラの人々との友好も進める。アフリカのエボラ出血熱には、それが起きたときからわが国は、医療支援をしてきた。世界の大義を維持するために、われわれは世界の人々との連帯を続ける。

⑤われわれがやっていきたいことの一つは、キューバの現状を広く皆さんに伝えること

■2011 年４月 18 日、第６回共産党大会で可決された 313 件の政策

共産党大会前に様ざまなレベル、様ざまな団体、地域で討議が行われ、これを受けて党大会が 313 件の政策を可決した。第６回で決議されたのは、社会主義を維持していくことだ。

筆者（左端）とアリシア・コレデラＩＣＡＰ副総裁（右端）

もちろん、経済発展をはかる。可決されたことを活かし、人びとの暮らしのレベルを上げる。経済的には社会主義体制のもとで、これからも経済を運営していく。基本的生産は、社会主義のもとでやっていく。革命の成果である医療、教育、社会福祉などの無料化は、これからも維持される。党大会の結論は、社会主義体制でできたものを、維持していくことができるということ。

党大会の後、決議されたものがどのように運営されているかチェックする機関として、全国政策実施調査会議ができた。調査しサジェスチョンを与える役割を持つ。会議の首長はマリーノ・マリージョという国家評議会メンバーの一員。国会で必要な法的措置をとれるようにサジェスチョンすることもできる。あらゆるレベルで、この機関から指導がある。

私は、ＩCAP副総裁だが、政策を実施するにあたり、経済的意味合いを考え、その効果を高めるために、優先順位を決める。

さらに、例をあげる。医療費は無料だが、一つの手術がいくらかかるか、経済的観点で見るよう勧めている。2012 年の党会議でも、指導部の役割、党の役割を重要なものとしている。

■第６回党大会後に変わった幾つかのこと

家を持っていても、車を持っていても、売れなかったが、これを売れるようにした。

国民に非常に大きなインパクトを与えたのが、移民政策の変換。キューバから外国へ行くことは、これまでは特例だったが、今は特例ではなくなった。以前は、海外に家族がいるとか、海外の人が呼んでくれるとかが条件だったが、今はそれがなくても行ける。自分が行きたいときにビザが出て、お金が調達できれば行けるし、キューバに戻ることもできる。以前は中央集権的にコントロールされた経済だったが、今は、私有の部分が広がっている。協同組合は、以前は農業分野

2015 年春キューバツアー行程表

2015 年４月 23 日～５月７日

日付	時間	訪問&活動
4月 23 日(木)	５：40 PM ４：40 PM ６：55 PM 10：25 PM	羽田発 AC-006 便 トロント着 トロント発　AC-1748 ハバナ着　ハバナ泊
24 日 （金）	9:：00 AM 11：00 AM	＊パナマ連帯学校訪問 ＊ＩCAP訪問 アリシア副総裁他政治分野 担当官達との意見交換　ハバナ泊
25 日 （土）	９：00AM	＊協同組合「ラ･カソーナ･デ･17」 訪問 ＊サン･ホセ･マーケット（民芸品） ＊旧市街散策　ハバナ泊
26 日 （日）	８：00AM ２：00PM	サンタ・クララに向け出発 フィンカ･フィエスタ･カンペシーノで休憩 ＊サンタ・クララＩCAPにて 日本食ワークショップ サンタ･クララ泊
27 日 （月）	９：00AM 10：30AM	＊病院訪問 サンタ・クララ総合病院 産科病院・救急部門／小児病院 ＊ＩCAPにて昼食 ＊ゲバラ霊廟訪問 サンクトウ・スピリトウスへ出発 ＊夕食後グアヤベラ博物館見学 サンクトウ･スピリトウス泊
28 日（火）	９：00AM 午後	トリニダーへ出発 ＊トリニダー建築博物館見学･製陶所 見学・塔の見学 ＊サンクトウ･スピリトウスのＩCAPにて オタク・クラブとの文化交流 ＊夕食後グアヤベラ博物館で交流 サンクトウ･スピリトウス泊
29 日（水）	８：00AM 午後	バラデロへ出発 ホテル･プラヤ･デ･オロ到着 ＊旧デュポン邸見学 バラデロ泊
30 日（木）	午前 午後	バラデロビーチにてフリー ハバナ向け出発 ☆参加者 14 名中 12 名延泊　ハバナ泊
5月1日(金)	５：00AM 10：00AM	ホテル出発 ＊革命広場でメーデー参加 メーデー解散　ハバナ泊
２日(土)	９：00AM	ホテル出発 ＊自然保護区ラス・テラサス見学 カフェ・マリア 版画家アリエルの工房 画家レステル・カンパの工房 ポロ・モンターニェスの CD カノピィ ＊昼食後レストラン裏のコーヒー 農園跡見学（奴隷労働の様子） ラス･テラサス泊
３日(日)	９：00AM 10：30AM	＊ソロア蘭園（竹内憲二氏ゆかり） 見学 ハバナ向け出発　マリエル特区の の近くを通って(車内から) ハバナ泊
４日（月）	10：30AM	＊国立芸術大学造形学科訪問 ＊ヘミングウェイ博物館見学 ハバナ泊
５日（火）	10:00AM	＊遺伝子工学センター訪問 ＊ボデギータで昼食後 ハバナ旧市街散策　ハバナ泊
６日 （水）	５：00AM ８：00AM 11:30 AM １：40PM	ホテル出発 ハバナ発　AC-1749 便 トロント着 トロント発　AC-005 便
７日（木）	３：35 PM	羽田着

だけだったが、サービス、レストラン経営や交通部門でもできている。現在、498 件の協同組合がある。サービス業分野では、飲食店１万 2998 軒の店ができた。

輸出を増やし、輸入を減らし、国の生産を高めることが行われた。輸出を増やすには、国内の生産の質を上げなければならない。これを重要視している。経営システムを中央に集中させず、非集中化している。

観光客は、前年より４％増加した。

キューバが持っている負債の支払いを進めることを、重要視している。ロシアとは、交渉の末、負債の 90%までが無くなった。長いプロセスとなるがやっていく。

昨年３月、新しい外国投資法が成立した。どこの分野に投資できるかが肝心。重要案件が 246 件ある。食糧、運輸、バイオテクノロジー、環境など。前は優先課題が明確でなかった。が、今は明確化して、246 件としている。

外国からの融資をはかり、マリエル経済特区を造成中だ。キューバ通貨も一本化する。国内ペソとＣＵＣ（兌換ペソ）を一本化する。非常に難しいが、もう始まっている。まず、国営の分野で進め、最終的に一般の人びとの間での一本化をはかる。

まだ小さい規模だが、47 万 7000 件の個人営業がある。経済的な面ばかりでなく、社会的側面、たとえば医療サービスの向上などにも力を入れている。去年、医療分野、教育分野など重要な仕事をしている人の給料がアップした。一般的なキューバ人の給料は低いが、その中で例外的にこういった措置がなされた。

■いつも尋ねられること

キューバはどこへいくのか？　資本主義になるのか？　われわれの基本的立場は、弱い人たちや子ども、人間性を中心に考える社会主義を進めるということだ。新たな方策は、いつでも人間性を尊重し、革命が成し遂げてきたものを維持し、社会主義を守るということだ。

⑥対米交渉について

４月 17 日、キューバ人誰もがエーッ！　という感じで流れたニュース。それは、オバマ大統領と国家評議会議長ラウルの会談だった。確かに歴史的出来事であった。何年もの間、多くの人びとが関係正常化を願い努力してきた。多くの報道は間違っているのだが、米・キューバが関係正常化を決めたというのではなく、実は国交回復のプロセスの第一歩が始まるということだ。

１月 22 日にアメリカ側代表とキューバ側との会議が始まった。２月 27 日、同じチーム同士がアメリカで会って、２回目の会議をした。報道によれば、互いに敬意をもって理解を深めたという。キューバとしては最初の会議から、国交回復のためには、テロ支援国家からはずさなければならないと主張してきた。

キューバはテロ支援国家ではなく、テロ反対の国家なのに、指定は不当なことだ。オバマはテロ支援国家リストからはずすことを米議会に出すといい、45 日間待つことになっており、われわれも今、待っている最中だ。

もう一つキューバが要求していることがある。1 年以上アメリカの銀行を使ってのオペレーションができずにいて、外

交上、難しい状況にある。銀行がオペレーションをすることを望んでいる。また、ウイーン条約で決められたことを守ることを要求している。外交上、内政干渉しないことを守れということだ。

２月の第２回会議で、民間航空、通信、キューバからの不法移民問題などについて話しあわれた。パナマでのラウル・オバマ会談後、アメリカから多くの国会議員や、ビジネス界の人たちが、キューバに来た。政界の人たちや外国投資法に関わってやってきたビジネス界の人たちは、「アメリカがとってきた孤立政策は間違っていたことを認識した」と言っている。

アメリカは、people to people と言っているが、まだそうはなっていない。12 月 16 日にオバマが言っている。「このような流れが、キューバの民間社会に良い影響を与えるだろう」と。

こういう流れにもかかわらず、私たちは、注意し警戒して見ている。なぜなら、パナマ侵攻やベネズエラのことがあるからだ。

ただ、いろいろあるが、キューバの友人たちに言いたいのは、互いの違いを認めた上で、両国関係の正常化を図ることが不可欠ということだ。互いの違いを認めて共存することが大事と、ラウルも言っている。

心配してくださっている皆さんに言いたい。
私たちは、革命に忠実にやっていく、と。

ハバナ市、2015 年6月8日

キューバ友好円卓会議　共同代表　岩垂弘様

敬愛する友人　弘さん

先日貴殿からの手紙を大きな喜びを持って受け取りました。それは貴殿が率いる円卓代表団が先日我が国を訪問した際受けた心遣いに対する礼状でした。

あなた方の行為に感謝しなければならないのは私たちの方です。特にここ何年にもわたる日本からの我が国に対する継続的連帯に対し深く感謝しています。

今回円卓代表団の訪問に直接係った各州のＩCAPにも貴殿の手紙のコピーを送っておきます。

皆さんがキューバで得た情報は、両国民間の新たな友好・連帯活動を広げるのに、役立つことをよく知っています。

これから先も円卓の訪問団を迎えることができるよう望みます。皆さん方を、それにふさわしい細心さを持って応対したいと思います。

我々の感謝の気持ちをお受けとりください。私から最も深い敬意をお送りします。

キューバ諸国民友好協会（ＩCAP）
副総裁　アリシア・コレデラ・モラレス

Ｑ＆Ａ

Q　来日したカブリサス国家評議会副議長は、両国関係正常化は時間がかかると言っていた。交渉開始以後、どうか？　今の段階で、交渉は順調か、難航か？　見通しはどうか？

A　交渉は続いており、動いている。長期にわたる良好でない関係があり、急に焦って物事をするのでなく、時間をかけてやっていくことが大事。

Q　米国への要求に、経済封鎖解除とグアンタナモ基地返還が入っていないが。

A　国交回復するために、経済封鎖を解け、とは言っていない。関係正常化交渉の中で要求していく。

Q　国交回復は象徴的なできごとか？

A　アメリカにキューバ大使館、キューバにアメリカ大使館を設置する。両国の大使館を作るため、わが国をテロ支援国家リストからはずすよう求めている。

Q　関係正常化のあとアメリカの資本が殺到してくるだろう。キューバ国内の所得格差が進むことにならないか？

A　とくに心配していない。国内でやっていかねばならないことはある。

Q　例えば、アメリカの企業ができてキューバ人を雇うと、給料が違う。

A　今でも合弁企業、個人企業との格差はある。到達目標として、格差がなくなるようにしていきたい。

Q　社会主義を大事にし、市場経済を導入していくと、去年言われた。今年それが出てこないが。

A　市場経済とは言っていない。プラニフィカシオン（計画策定）とコントロールと言った。

Q　人は、有るものの有難さを忘れがち。無料で受けられる有難さを、分かっているのか？　教育をしているのか？

A　政治社会教育と言っている。私たちはずーっとこうして教育してきた。前の世代の人たちが血を流して獲得してきたものだと、教育している。大事にしている価値観は、教育の中で教えている。

1000 万円届けました！　加藤玲子（キューバ友好円卓会議事務局）

昨年は 800 万円、今年は 1000 万円、無事にキューバ、サンタ・クララ市の病院へ届けることが出来ました。昨年にしろ、今年にしろ、一緒に行った方達の協力がなければ、実現しなかったことなので、皆さまに感謝です。寄贈者の方からは「私は、カストロさんの大ファンです。カストロさんは、私の人生を豊かにしてくれた存在ですから、そのことに対して、たとえ僅かでも感謝の気持ちを表したい、ただただその思いだけです。その思いをキューバの皆さんにお伝えください」とのメッセージでした。

今年の寄付先の一般病院と小児病院の両方を訪ねました。どちらも大きな病院でした。一般病院の院長へ寄付金を渡しました（写真）。二つの病院とのことだったので、二つに分けていたのですが、金庫は同じとのこと、昨年、顔なじみになった責任者の方と書類の取り交わしをしました。一般病院では、サトウキビ刈りのキャンプのお医者さんだったマチャド医師にも会うことが出来、まだ、現役で働いておられ感激しました。昨年、寄付金を届けた産科病院も訪ねました。実は、寄付金で行う設備環境改善工事は、まだ始まっていませんでした。日々、出産、手術が行われているので、工事の間、それを移す場所が必要で、そちらの方の工事が行われていました。きれいにペイントされ、ずいぶん作業が進んでいる様子でした。８月より寄付金による工事が始まる予定とのことでした。

予想より遅いですが、経過を確認することが出来、良かったです。寄贈してくださった方のご厚意をキューバの人々に届けることが出来、安堵しています。

2015 キューバ友好フォーラム　講演会報告

講師　寺地五一さん

ケネディとカストロが探った和解への道

『ジョン・Ｆ・ケネディはなぜ死んだのか？　語り得ないものとの闘い』から読み解く

報告　河内茂幸（キューバ友好円卓会議事務局）

写真撮影　川島幹之

桜が開花し始めた去る３月 29 日（日）、『「ジョン・F・ケネディはなぜ死んだのか？　語り得ないものとの闘い（ジェイムズ・W・ダグラス著　同時代社）」から読み解く』と題して、原作訳者の 寺地五一さんによる講演が中目黒スクエアーにて行われました。寺地さんのお話は、ケネディが暗殺されるに至った理由や背景の核心を時代を超えてありありと伝え、人類共存のためにケネディがどこまでも追求しようとした「対話による平和主義」の持つ普遍的価値を本当に深く感じさせるものがありました。さらに、事実の積み重ねによって真実へと迫ることの重要さをあらためて彷彿させられました。お話の内容を報告します。

平和追求への転向

米ソ両陣営の冷戦構造の中で力による国家安全保障を最優先させようする当時の米国軍産複合体・ＣＩＡの強大な圧力に苦悩しながらも、ケネディが平和追求へと転向した決定的な契機は、キューバミサイル危機を敵対国のニキータ・フルシチョフとの対話によって回避したことの中にあった。

1962 年 10 月、米国のU−２型偵察機がキューバの空撮を行い、ソ連がキューバに建設していたミサイル基地を発見したことから、キューバミサイル危機が発生。米国とソ連による核戦争の脅威が世界を震撼させたが、ケネディはフルシチョフに働きかけ、キューバ不侵攻を約束し、フルシチョフは、キューバのミサイルを直ちに撤去することを約束した。ケネディは、ソ連という当時の敵国との対話によって危機を乗り越えたことで、その後さらなる平和戦略に進んでいった。

1963 年６月 10 日にアメリカン大学で行った演説の中でケネディは、ソ連との平和共存のための努力の大切さを訴え、部分的核実験禁止条約を締結する構想を発表した（２か月後に批准された）。その演説内容は、米国政府・メディアの冷ややかな反応とは異なり、ソ連国民には大きく支持された。同年９月末には、ケネディのフルシチョフとのコミュニケーションを終わらせようとする米国国務省に抗い、軍縮についての話し合いをソ連と（秘密裏に）進めたいという希望をフルシチョフに伝えた。そして、その目的のために、ソ連の指導者と秘密の通信回路をふたたび開こうとした。1963 年 10 月 11 には、国家安全保障行動覚書で、1965 年末までにベトナムからすべての米軍関係者を撤退させることを決定した（1964 年の大統領選挙でケネディが再選されないと表向きにできない性格の決定ではあったが）。

キューバとの関係改善

1962 年秋、ケネディ大統領と弟のロバート・ケネディ司法長官は、ニューヨークの弁護士ドノバンをキューバに派遣し、ピッグス湾侵攻事件（カストロ革命政権を転覆すべく、ＣＩＡが中南米で軍事訓練した在米亡命キューバ人傭兵によるキューバ侵攻 <1961 年４月> ）でキューバ側の捕虜になった在米亡命キューバ人の釈放交渉にあたらせた。

寺地五一さん

その結果、米国からの 6100 万ドル相当の医薬品や食料品との交換で、1500 人の捕虜は、1962 年 12 月のクリスマスまでに全員が釈放された。ピッグス湾侵攻では、傭兵のキューバ上陸後米軍が支援するという作戦をケネディは支持しなかった。ケネディは侵攻失敗の責任を認めたが、ＣＩＡに対しては軍事行動の失敗を厳しく追及し、幹部をことごとく更迭した。

1963 年４月ドノバンはキューバで再びカストロに会った。米国との関係改善を希望していたカストロはドノバンに対し、「米国との国交正常化のためにはどうすればよいか」と尋ねた。ドノバンは、「ヤマアラシの求愛と同じで慎重に進めることが肝要です」と答えたという。ドノバンとカストロのこうした良好な関係によって、米国とキューバの関係改善の流れが作られていった。（ケネディは、ドノバンのＣＩＡとの密な関係を嫌い、カストロとの接触に向けたケネディによるその後の動きにドノバンが登場することはなかった。）

ドノバンの知り合いでアメリカABC放送の女性ジャーナリストであったリサ・ハワードは、ケネディの非公式な特使として 1963 年４月にキューバでカストロに面談した。カストロは、その面談においても、米国との関係改

善を望んでいることを明言した。リサ・ハワードは帰国後 CIA からの事情聴取に対し、カストロが米国との関係改善を希望していることを報告した。そして、ケネディ政権に対し、カストロの言い分を聞くべく、米国政府関係者を密使としてキューバに派遣すべきだと提言した。

元記者で外交官（駐ギニア大使）のウィリアム・アトウッドは、リサ・ハワードの報告を聞いて、自分がキューバとの窓口になってもいいという意向をケネディに伝えた。1963 年９月 23 日、リサ・ハワードはウィリアム・アトウッドと協力して、ニューヨークの自宅でカクテル・パーティを装い、ウィリアム・アトウッドをカルロス・レチュガ（国連キューバ大使）に引き合わせ、両者の話し合いのきっかけを作った。

アトウッドはレチュガに、キューバに行ってカストロ首相に米国とキューバの関係改善の可能性を尋ねたい、と申し出た。レチュガは、ハバナでのカストロ首相との会談を設定できるかもしれないと答えた。アトウッドは、翌 24 日ワシントンでロバート・ケネディと会い、前日のレチュガとの話の内容を報告した。

ロバート・ケネディは、アトウッドがハバナに行くのはリスクが高すぎるので、カストロがキューバ以外の場所、たとえば国連で会うことに同意してくれる可能性をレチュガとさらに詰めてほしいと答えた。３日後、アトウッドは国連代表部ラウンジでレチュガと会い、自分が政府の人間としてキューバに行くのは難しいので、キューバ以外の都合のいいところでお会いして、私たちがお話を聞く用意がある、と申し出た。レチュガはその申し出をハバナに伝えると答えた。

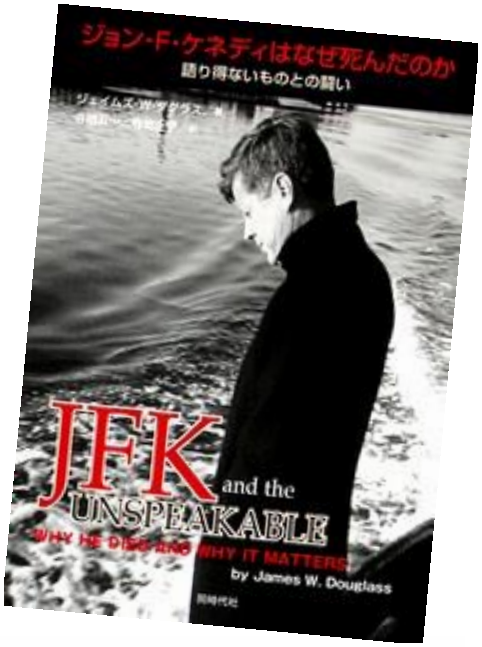
しかし、ハバナから回答がないまま日数が経過したため、リサ･ハワードは、カストロの主治医で側近のレネ・バレホとの電話コンタクトを試みた。彼女は、レチュガのメッセージがキューバ外務省どまりになっているのではと思い、バレホを通して、米国政府関係者のカストロとの話し合いの意向をカストロ自身に伝えようとした。

10 月 29 日、バレホからリサ・ハワードに電話があり、「米国から密使が来るのは歓迎だが、カストロがキューバを留守にして、国連あるいは別の場所に行くことは不可能だ」と伝えられた。10 月 31 日、バレホからリサ・ハワードに再び電話があり、『カストロは「メキシコ」まで飛行機を出し、そこでその政府役人を乗せてバラデロ近くの個人所有の飛行場に運び、二人きりで話す用意がある。そうすればハバナ空港で見つかる心配はない』と語った。

バレホはその後もリサ・ハワードに数回電話し、カストロがケネディとの対話を進めたいと強く希望していることを伝えた。リサ・ハワードはカストロのそのような希望をアトウッドに報告し、アトウッドは、その報告内容をケネディの安全保障担当補佐官マクジョージ・バンディと国家安全保障委員会のゴードン･チェイスに話した。

ジョン･F･ケネディはなぜ死んだのか

語り得ないものとの闘い



著者　ジェイムズ・W・ダグラス
寺地吾一／寺地正子　訳
定価　3700 円＋税
発行　同時代社
TEL　03-3261-3149　FAX 03-3261-3237

「なぜＪＦＫの死が重要なのか？　この類まれな本を読んで、あなた自身の結論を出してください」オリバー・ストーン

「夜を徹して読んで、涙が止まりませんでした。一睡もしませんでした。いますぐ立ち上がって、世界を変える力を与えてくれる本だと思います」オノ・ヨーコ

「すべてのアメリカ人にこの本を読んでもらいたい」ロバート・ケネディ・ジュニア

11 月 18 日、リサ・ハワードはアトウッドにバレホへ電話させ（カストロも聞いていた）、バレホに「事前の話し合いのためにニューヨークに来ることができるか」と尋ねた。バレホは、カストロとの対話のアジェンダ（議題）を設定してレチュガに指示すると答えた。ケネディは、22 日のダラス遊説から戻ってからできるだけ早くカストロとの対話の具体的な点を詰めようとしていた。

しかし、ＣＩＡはケネディとカストロを殺害する工作を進めていた。（ロバート・ケネディの代理人になりすましたＣＩＡ特殊作戦要員が（ＣＩＡがとりこんだ）キューバ人の大物ＣＩＡ秘密工作員にペン型毒殺器具（ボールペンの先に、刺されても気がつかないほど細い注射針が装着されたもの）を渡しカストロを暗殺しようとする企みを、カストロが事前に察知し、（カストロが）ケネディ暗殺を命じたような筋書きを（ＣＩＡが）作り上げ、結果としてロバート・ケネディが自分の兄の暗殺の引き金を引いた、という策略を、まさに実行しようとしていた。（「11 月 22 日、ケネディ大統領が銃撃されたまさにその瞬間に、パリでそのペン型毒殺器具が渡されていた可能性が高い」）

ケネディは、リサ・ハワードやアトウッドを起用した動きの一方で、10月24日、フランス人ジャーナリストでアトウッドの旧友ジャン・ダニエルのインタビューを受けた。ケネディはダニエルをカストロへの非公式特使にしようとしていた。

ケネディはインタビューの中で、キューバの苦悩について、『すべてのアフリカの地域、植民地支配のもとにあるあらゆる国々を含めて、世界の中で、キューバほど経済的植民地支配、屈辱、収奪がひどい国はないと私は信じています。それはバティスタ政権時代のわが国の政策のせいでもある。フィデル・カストロは、シエラ・マエストラ山中の宣言で、当然ながら正義を求め、キューバからの腐敗一掃を特に願いましたが、私はそれを是認しました。私はもう一歩踏み込んで、バティスタが、ある程度は米国が犯した数多くの罪悪の化身であると考える。私たちはその罪悪の代償を支払わねばなりません。バティスタ政権に関しては、私はキューバ史上最初の革命者たちと意見を同じくします。これは明白なことです』と語った。

しかし、ケネディは、『1962年に世界が核戦争の瀬戸際まで行ったのは、カストロのせいである』とも語り、カストロとの対立点も示した。

ケネディに会った後、ジャン・ダニエルはカストロにインタビューすべくキューバに行ったが、11月の最初の３週間、カストロに会えなかった。しかし、ハバナを出発する予定日前日の11月19日の夜に、ダニエルが滞在していたホテルにカストロがひょっこり現れた。

カストロはケネディのことを聞きたがった。ダニエルは、ケネディから託されたメッセージを伝えたが、カストロは、ケネディがバティスタ政権を批判した言葉や、最後にケネディが全人類に致命的な戦争を引き起こす寸前まで行ったとしてフィデルを非難した言葉については三度繰り返させた。ダニエルは話し終えて、相手の反応を待った。

カストロは長い間黙っていたが、「私はケネディが誠実な男であると信じている」と切り出し、ケネディが置かれている難しい状況にも理解を示した。しかし、ミサイル危機で人類を核戦争の淵まで追いやった最大の責任がカストロにあるというケネディの非難には次のように激しく反論した。

『ミサイル基地がキューバに設置される６か月前に、ＣＩＡのあと押しでキューバへの新たな侵攻が計画されつつあると警告する多くの情報が我々に寄せられた。……その後、フルシチョフの娘婿のアジュベイがケネディの側近たちの招きでワシントンへ行きケネディと会談したが、話題はキューバに集中した。アジュベイにケネディが何を言ったかよく聞いてほしい。なぜなら、とても重要なことだからだ。

ケネディは、キューバの新しい事態は米国にとって許しがたいことであり、米国政府はこれ以上容認できないとの結論に達していると言ったのだ。キューバへのソ連の影響が勢力のバランスを崩し、合意された均衡を破壊しつつある。……米国はハンガリーに介入しなかったと言って、ロシア側に釘をさした。これは明らかに、侵略が起きてもソ連は介入するなという要求である。……ソ連は二つの選択肢をつきつけられていた。キューバ革命が攻撃された場合の（社会主義圏でのロシアの責任と立場の故に）絶対的に回避できない戦争、もう一つは米国がミサイルを前にしても後退することを拒み、キューバを崩壊させる試みを止めない場合の戦争リスクである。ロシアは社会主義国の連帯と戦争のリスクを選んだのだ。……要するに、そのとき、我々はミサイル配備に同意したのだ。……しかし、我々は世界平和を賭していたわけではない。革命を押さえつけるために戦争という脅かしを使って、人類の平和を危うくしていたのは米国だ』

ケネディに対するカストロの見方は変わりつつあった。ケネディは話せる相手であると思うようになり、1964年に大統領に再選されれば、その４年間を加えこれから６年間の猶予があるのだから、ケネディと話し合いたいと考えていた。しかし、ケネディとの対話実現に向かっての最終プロセスともいえるほど重要な局面で、ケネディは暗殺されてしまった。

1963年11月22日の午後、ジャン・ダニエルがバラデロビーチのカストロの夏の別荘で、カストロと昼食をとっていた時に、二人はケネディ暗殺の知らせを受けた。カストロはその瞬間ダニエルに、「なにもかもが変わった。これですべてが変わってしまう」という言葉を発した。

世界核戦争回避への道

ケネディとフルシチョフは、1961年６月の両者のウィーン会談の後再び会うことはなかったが、両者間の個人的な書簡（21の秘密の書簡）のやりとりによって接触が続けられていた。二人の書簡のやりとりは、「あなたと私と関係はノアの方舟であり、絶対に沈ませてはならない」というフルシチョフからの書簡に始まり、ケネディも、そのようなフルシチョフの趣旨に賛同した。そうした書簡のやりとりは両者間のバックチャンネルとなり、密接な関係が続いていた。

そうしたなかで、キューバミサイル危機が発生。1962年10月14日にアメリカ空軍のU−2偵察機がキューバの空撮を行い、ソ連が建設中のミサイル基地を発見。ケネディは、ミサイル基地への空爆を主張する国防総省やＣＩＡの強硬論を抑えて、キューバ周辺の公海上の海上封鎖およびソ連船への臨検を行うことでソ連船の入港を阻止しようとした。

10月27日には、核魚雷を搭載したソ連の潜水艦を追尾していた米艦隊がソ連潜水艦を浮上させようとして（その潜水艦が核魚雷を搭載しているかどうかも知らずに）爆雷を投下した。

結局、ソ連潜水艦は降伏して海上に浮上したため、危機は回避されたが、仮に、ソ連潜水艦が核魚雷で反撃していたならば、核戦争へとつながったかもしれない。さらに同27日に、キューバ上空を偵察飛行していたアメリカ空軍のU−2偵察機が、キューバのソ連軍地対空ミサイルで撃墜された。

米エクスコム（国家安全保障会議執行委員会）は、ケネディにキューバミサイル基地への報復攻撃を勧告したが、ケネディは承認しなかった。米国ソ連の双方は、それぞれのミサイルの発射準備態勢に入った。核戦争の瀬戸際に追い詰められたケネディは、秘密裏にフルシチョフに救いを求めた。秘密の書簡交換を通してケネディへの信頼感を醸成させていたフルシチョフは、彼を助けようと決断した。

フルシチョフは10月26日、アメリカがキューバに侵攻しないならキューバの核ミサイルを撤去させるという書簡をケネディに提示していた。しかし、さらにフルシチョフは10月27日、トルコに配備されているアメリカのミサイルを撤去するよう要求した。瀬戸際に立たされたケネディが、その要求に対して選択したのは、アメリカがトルコに配備したミサイルを撤去するという譲歩であった。

そしてケネディは、その譲歩のソ連側への提示を秘密裏に行うべく、弟のロバート・ケネディ司法長官に駐米ソ連大使との秘密会談を持たせた。その秘密会談でロバート・ケネディは、キューバのミサイル基地撤去の確約が得られるなら、トルコのミサイルを撤去するという対案を提示した。

10月28日、フルシチョフはモスクワ放送でミサイル撤去の決定を発表。フルシチョフはケネディの条件を受け入れ、キューバに建設中だったミサイル基地やミサイルを解体・撤去し、ケネディもフルシチョフの一番目の要求（アメリカのキューバ不可侵）を受け入れ、キューバへの武力侵攻はしないことを約束した。

トルコに配備されていたアメリカのミサイルは翌1963年に撤去された。このように、核戦争回避の道は、ケネディとフルシチョフによって作られた。世界核戦争の切迫という危機的な状況にありながらも対話を放棄しなかったケネディとフルシチョフによって、核戦争回避の道が作られたのである。

キューバ危機とカストロ

カストロは、ソ連がキューバに何の相談もなく核ミサイルを撤去したことに激怒した。これに対してフルシチョフは、危機後の1963年１月の書簡で、カストロをソ連に招待したいと申し出た。カストロは1963年５月から６月初旬にかけてソ連に滞在し、滞在期間の少なくとも半分をフルシチョフとともに過ごした。

フルシチョフはケネディからの多くの書簡（なかにはロバート・ケネディからのものもあった）をカストロに読んで聞かせた。フルシチョフは、ケネディと共に全面戦争の瀬戸際から学んだ逆説的な平和への目覚めをカストロに伝えようとしていたのである。カストロは、ケネディと交渉しようと決意を固めてハバナに戻った。

ＣＩＡは、カストロ、フルシチョフ両首脳をはじめすべての当事者の動きを監視していた。（1966年にＣＩＡ長官になる）リチャード・ヘルムズは同僚に宛てた極秘メモで、カストロはケネディ政権に対して「当面は」融和政策をとるという意向を固めて、キューバへの帰路にあるという報告をＣＩＡは受け取ったところだ、と述べている。

「平和はプロセスである」

アメリカ軍は、ソ連に対する先制核攻撃計画を1957年にスタートさせた。軍の好戦派は、先制核攻撃に必要なＩCBMを準備できるのは1963年の終わりだと推測して、計画を推進しようとしたが、ケネディはこの計画に強硬に反対した。国家安全保障会議（ＮＳＣ）小委員会は、冷戦中の1957〜1963年に、核戦争の想定被害に関する年次機密報告書を作成していた。ケネディは、1961年の大統領就任後初めて受け取った報告書の内容（ソ連の先制攻撃と米側の報復により米・ソ・中それぞれの国において数千万人の死者が出るという予想）に、「それでもわれわれは自らを人類と呼ぶのだろうか」と嘆いた。

ケネディは、第三世界の民族自決運動に理解を示し、たとえば、コンゴをベルギーからの独立（1960年）に導いたルムンバ（1961年殺害された）を支持した。1963年６月10日に行ったアメリカン大学の演説の中でも、「他国の自決を干渉する国がなくなれば、平和は今よりもはるかに保障されることになるでしょう」と語っている。また、同演説で、「…嫌がる人たちに、私たちの体制を押しつけるつもりはありませんが、私たちは地球上のいかなる人たちとも平和を目指す競争を行う用意がありますし、行うことができます」と語っているように、敵対国の体制をくずしてまで敵対するつもりはないという考えを持っていた。

ケネディのこうした平和志向は、「真の平和は、多くの国によって生み出され多くの行動を積み重ねたもので

なければなりません。そうした平和は固定されたものではなく、新たな世代が生まれるたびに、その世代の課題に応じて変わっていくものでなければなりません、なぜなら、平和とはプロセスであり、課題を解決するための一つの方法だからです」という、同演説での言葉に収斂されている。

エピローグ

ケネディは、彼の敵（つまり米国の敵）との和平に向かったために、「語り得ないもの」として存在する権力によって殺害されました。「語り得ないもの」は、政府や権力のように外部の闇の中にだけ存在するものではありません。私たちの中にも存在します。

ケネディ暗殺に至るまでに、そのことを示すいくつかの先例がありました。米国政府が（ドレスデン、広島、長崎などの）都市を壊滅させたとき、米国市民はその政府を支持しました。

「語り得ないもの」は遠い存在ではないのです。私たち市民による否認が、「妥当な否認根拠」という政府の原則の根拠になっています。

それでも、しかし、「語り得ないもの」を包む闇を覆すのも市民の力です。

『私たちができるだけ深く闇の中に入り込めば、結果はどうあれ、真夜中の真実が私たちを暴力への隷属から平和の光へと解放してくれると私は信じる』

―ジム・ダグラス

2015年９月８日～９日　於：ベトナム・ハノイ

第7回 キューバ連帯アジア太平洋地域大会 参加募集のお知らせ

第７回キューバアジア太平洋地域大会はベトナム社会主義共和国にて、2015年９月８日～９日まで首都ハノイで開催されます。大会では国家間の友好と連帯強化のために、さらなる活動が行われる予定です。

当イベントは、キューバ諸国民友好協会（ＩＣＡＰ）設立55周年ならびにベトナム独立宣言70周年の年に開催されます。

本大会は間違いなく、キューバとベトナムの優れた友好関係の新たな模範となるでしょう。敬愛するホーチミン大統領の祖国から、アジア太平洋地域のキューバへの連帯運動強化のための前進となるこの重要な大会に、私たちはすべてのキューバの友人を招待します。あなたの参加を楽しみに待っています。

参加を希望される方は当大使館までご連絡ください。
費用はＵＳＤ250です。含まれるものは、大会参加費、２日間の会場移動費とツインの宿泊費です。
ご不明点がございましたら、大使館でもご質問を承ります。

キューバ共和国大使館　友好・政務部（森）
Tel: 03-5570-3182　Fax: 03-5570-8521　E-mail: tcultura@ecujapon.jp

7回目を迎えました♪

佐久総合病院「病院祭のお絵かきコーナー」

出町千鶴子（画家／キューバ友好円卓会議事務局）

2008年、アレイダ・ゲバラさんが初来日。彼女のたっての希望が「日本の伝統医療の視察」でした。この時、アレイダさんに同行して長野県の佐久総合病院を訪問しました。

このことがきっかけで、翌2009年から病院祭のイベントの１つとして始まったこども館（小児科）の「お絵かきコーナー」は、今年で７回目を迎えました。

今年も開始前から大勢の子どもたちが集まっていました。子どもたちは手に手に筆を持って、早く描きたい気持ちでもじもじうずうずしています。

ひらかず君は、毎年参加してくれる常連さん。７年前はお父さんの膝の中で、絵筆を持つ手をお父さんに持ってもらって描いていましたが、今では私の大切な顧問的存在。画伯と呼んでいます。私が青い鳥を描くと、画伯は赤い実の一枝を描いてくれました。常連さんの成長を見るのも、このお絵かきコーナーの大きな楽しみの一つです。

今年のテーマは「こどもの心」。私の「みんなが、いま一番描きたいものを描いちゃおうか」の声で、一斉に描き始め、30分とかからずに一気に描き上げた大作です。如何でしょうか。

病院祭は、毎年５月第３土・日曜日に開催されています。今から、来年が楽しみです。